

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会高齢者ケアセンターこぶし園	代表者	吉井靖子	法人・事業所の特徴	築き上げてきた暮らしを支える。ご利用者の生活・介護（暮らし）を支えることを念頭に置き、日常生活の支援を行っています。中重度方でも安心してご自宅での生活が継続できるよう訪問を中心とし通い・宿泊の利用調整を行い援助しております。今まで暮らしてきた生活のスタイルを崩さず要介護状態となってもご自宅で暮らせるように、ご利用者一人一人に寄り添った柔軟な支援をしています。また複合型施設の特徴を生かし、他事業所とのご利用者との交流や地域の方の協力のもとさまざまなアクティビティを取り入れ活動を行っています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護千秋	管理者	大矢泰三		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	3人	1人	1人	1人	1人	0人	4人	0人	12人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	項目によっては解釈にばらつきがあり、評価に苦慮した所もあった。次年度以降も実施ガイドのポイントを参考に理解を深め、具体的な改善計画を可能なものは年間計画として盛り込んでいく。	異動職員が少なかったこともあり、自己評価を行うにあたってはポイントを絞って確認を進めることができ円滑に行うことができたものと思われる。	サービス評価については、そこに割く時間が多く運営推進会議の大部分を占めているのが現状としてある。会議が十分に活用されるよう、サービス評価の進め方についても検討していきたい。	サービス評価の進め方については長岡市からもアドバイスをいただきながら少しでも効率よく行えるよう運営推進委員の皆様と一緒に話し合い、可能な所から変更していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	事務職員がいなくなったことで常駐できない現状があることを再度ご説明するとともに、事務室が不在であったとしても基本的な窓口対応を他の職員も行えるよう努める。また、不在の場合でも職員が携帯する PHS に繋がる電話機が事務室前のカウンターに置かれているが、わかりにくく機能していない現状がある為、活用いただけるよう目立つような工夫を凝らす。	事務室が不在になる際には電話機と一緒にその旨を記した掲示板をわかりやすく設置をさせていただいた。また、事前に来所がわかっている場合など必要な対応が行えるよう他事業所職員にも情報提供を行い、可能な限り丁寧なご案内ができるよう努めた。	とくに事業所への入りにくさというものは感じない。正面玄関にはお花が生けてあり、季節感も感じられる。 面会に来られたご家族や地域の皆様が来所された際に、用事を済まされてすぐに帰宅されるのではなく、わずかな時間であってもお茶やコーヒーを飲みながらご家族同士やご家族と職員との親睦が図れるような工夫をしたい。	センター内に喫茶スペースを設けるなど今後検討していきたい。
C. 事業所と地域のかかわり	ご利用者やご家族、地域の皆様に対して例外なく全職員が気持ちの良い挨拶を交わすことができ、職員も同じ地域住民の一人として関わりを密にしていけるよう、	4月に接遇に関する事業所内研修を実施し、その後も定期的にミーティング時に意識付けできるよう働きかけを行った。満足度調査においても挨拶の項目は回答	これまで以上に職員一人ひとりが地域交流、社会資源との関りなどを意識されているように思う。ぜひこれからも協力をお願いしたい。	各町内に対しこれからも積極的な関りがもてるよう地域にアンテナを向け情報収集に努めるとともに、年間計画にしっかりと位置付けながら運営推進会議の中

	<p>接遇に関する研修を年間計画の中に位置付けていく。 町内会行事への参加も継続しながら、災害時には助け合えるように備蓄品や設備面の情報共有も図っていく。</p>	<p>いただいた全員が「できている」にチェックが入っており、この点についてはしっかりと対応できたものと思われる。引き続き気持ちの良い挨拶を心掛けていく。 今年度も大島地区敬老会や古正寺まつり、地域啓発活動など積極的に参加・実施し、徐々にではあるが各町内会からも事業所を認識していただけたのではないかなと思われる。次年度以降も継続していきたい。備蓄品及び設備面での情報共有については F 項目同様。</p>		<p>で報告、評価をしていく。</p>
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>地域で生活をされている利用者以外の方への支援について地域包括支援センターや警察、民生委員等と連携しながら運営推進会議等を通じて情報収集に努め、どのような関わりが必要なのか検討していく。</p>	<p>地域包括支援センターから協力を求められた方や近隣のサービス付き高齢者住宅に入居されている方などに対し、可能な限りの支援を行った。小規模では対応が困難と思われる場合もあるが、運営推進会議のなかで情報共有し、必要と思われる支援を続けていきたい。</p>	<p>このような支援を継続していくことで民生委員をはじめ、地域の方々から事業所を認識していただけのではないかな。 情報収集するにあたり運営推進会議だけでなく地域の方々と接する機会を設けることも重要である。</p>	<p>今後も定期的な運営推進会議及び地域サロン、「まちなね」と称した地域啓発活動を積極的に展開し、参加される住民の皆様から情報提供いただく機会を設ける。 また、地域包括支援センターからも情報が得られた場合にも事業所としてどのような支援ができるのか検討し、実施した場合には運営推進会議において報告・評価をしていく。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議の中で集められた情報をもとに必要な支援の有無やその内容について協議し、事業所としてだけではない地域に向けた取組みをしていく。 また、利用者以外の方の事例を検討する際の個人情報の取扱いについても協議していきたい。</p>	<p>今年度の運営推進会議において得られた情報はなく、登録者以外の方への支援を行ったものの現時点では事例検討には至っていない。 その際の個人情報の取り扱いについては今年度第6回（3月）の運営推進会議において協議する予定。</p>	<p>個人情報保護が義務付けられているものの、知り得た情報を誰がどこまで共有し、その管理方法など判断が難しい。</p>	<p>現在の取り扱い方法などを説明しながら現時点での評価を行う。 また、1回の会議で判断することは難しく時間をかけて協議する必要がある、次年度の運営推進会議の中でも計画的に実施していきたい。</p>

F. 事業所の  
防災・災害対策

事業所内で組織する防災委員会を中心に回覧等を使用して地域住民の皆様へ防災訓練への参加を呼び掛け、設備や備蓄品などもお伝えしながらいざという時に円滑に連携がとれるよう情報提供していくとともに、寺島町内会及び古正寺町内会に自主防災組織の有無を確認しながら、そのような方々からセンターに足を運んでいただけるような仕組み作り（防災に重点を置いた見学会の開催など）を検討していく。次年度の評価ファイルにはサポートセンター千秋の防災関係のマニュアルを綴り、委員の皆様提示できるよう準備する。また、今後も地域の防災訓練に参加をさせていただき、地域が抱えている課題を把握しながら、緊急避難場所としても機能が果たせるよう準備を進める。地域との連携強化に向け、時間も必要と思われるが、年次的に実現を目指して計画・実施していく。

今年度ご出席いただく運営推進委員の皆様には防災に関するマニュアルや消防計画などをファイルに綴り、ご提示させていただいた。今年度も防災訓練は2回実施したが地域の皆様に広く広報はせず、各事業所の運営推進委員の皆様から見学・評価をいただいた。また、今年度も寺島町内会の防災訓練に参加をさせていただき情報交換が行えた。自主防災組織というものはなかったが、災害が発生した際の1次避難場所や備品の確認などについて双方の情報共有が図れたものと思う。

非常に有効な情報交換の機会であったと思う。数回ではお互い共有しきれない部分もあると思われる為、次年度以降も継続してこのような機会を設けることが重要である。まだ意見交換できていない地域もある為、少しずつ段階的に進めていくとよい。

寺島町内会同様に、古正寺町内会ともこのような機会を設けられるよう、町内会長を通じて情報収集し参加を計画していきたい。また、災害などの緊急時には千秋を頼っていただけるよう地域に向けた情報発信の機会として次年度以降もお互いの防災訓練への参加を継続して行っていきたい。今年度実施できなかったが運営推進委員だけでなく、地域の皆様から介護だけでなく非常災害時におけるセンターの役割などについて認識していただけるよう、どのような働きかけが必要なのか引き続き防災委員会を中心に検討していく。